

第23回（令和2年度第1回）
セーフコミュニティ交通安全対策委員会

《会 議 次 第》

日程：令和2年3月24日（火）～
令和2年4月3日（金）

1. 協議事項

- （1）令和元年度取り組み実績及び令和2年度取り組み方針（案）について資料1
- （2）セーフコミュニティ実態調査（案）について資料2

2. 参考資料


久留米市における交通事故発生状況について

A SAFE COMMUNITY


＜具体的施策（４２施策）の個票＞

交通安全対策委員会

個票

【高齢者事故防止】1ー① 運動能力や身体機能に着目した啓発・講習の実施							
課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の歩行中や自転車の死亡事故が多い ・運動能力や身体機能の変化に応じた行動が取れていない ・高齢者が加害者となる事故が増加している 					
	主観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が交通安全に関する知識を得る機会が少ない 					
目標	高齢者関連事故の減少、高齢者が第一当事者となる交通事故件数（割合）の減少						
内容	歩行中や自転車・自動車運転中に自らの運動能力等を自覚した行動を意識してもらうため、様々な機会を捉えた講習を実施するとともに、運転免許の自主的な返納に関する啓発を行う。						
対象者	一般市民（高齢者）						
実施者	交通安全協会、交通安全指導員等ボランティア、老人クラブ連合会等関係団体、警察、市など						
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全講習会の開催 ・街頭啓発キャンペーン、各種交通安全イベントへの参加 ・委員の所属団体や関係団体における啓発、団体広報紙等への記事掲載 ・チラシ、啓発グッズの作成 						
2019年度の実績 及び 改善した点等	<p>○高齢者交通安全講習の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大善寺自動車学校の協力のもと、警察や交通安全協会等と連携し、高齢者に自らの身体機能等を自覚した行動を意識してもらうため、体験型の交通安全講習「シルバーセーフティスクール」を実施。（4月） ・地域の老人会等の高齢者向けに講習を実施。〔警察〕（34回） <p>○高齢ドライバー向けの交通事故防止啓発の実施</p> <p>四季の交通安全県民運動やセーフコミュニティフェスタ等のキャンペーンの中で、高齢ドライバーの事故防止について啓発。（11回）</p> <p>○民間企業と連携した高齢運転者の事故防止対策【新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通ボランティア等の車に後付け安全運転支援装置を取付け、運転者・家族の安心感や効果等に関する実証実験をダイハツ工業と実施。 ・オートボックス、自動車学校等と連携し、後付け安全装置搭載車を試乗できる機会を設け、実際に体感してもらうことで安全装置の認知・普及の拡大。（5回） <p>○自主活動の活性化に向けた交通安全情報の提供【新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全指導員の交通安全活動や啓発活動等に活用してもらうため、交通情勢や交通指導の内容等について情報提供。（3回） ・市ホームページ内の「高齢者の事故防止」の内容拡充。 						
2020年度の方針 及び 課題等	<p><u>高齢者向け交通安全講習の受講機会の拡大【拡充】</u></p> <p><u>高齢者の運転免許証自主返納啓発チラシの作成【新規】</u></p> <p>免許返納者に対する支援サービス等を掲載した啓発チラシを作成し情報提供することで、高齢者の運転免許証の自主返納を促進する。</p>						
指標	内容	単位	2015	2016	2017	2018	2019
活動指標	①高齢者対象交通安全講習の実施回数	回	34	30	30	50	35
	②高齢ドライバー向け啓発活動の実施回数	回	2017より実施		10	12	11
【短期】認識・知識	講習参加者の意識の変化[アンケート] 受講後、「必ず反射材を身につけて外出するようになる」と答えた方の割合	%	2017より実施		59.1	72.2	72.3
【中期】態度・行動	運転免許自主返納者数[警察統計]	人	市町村別の統計なし	509	1,268	1,154	1,040
【長期】状況	①第1当事者となる高齢者の交通事故発生件数	件	517	515	482	476	350
	②高齢者人口1万人あたりの①の件数	件	68.0	66.0	60.3	59.5	42.7

【高齢者事故防止】1-② 明るい服及び反射材の着用キャンペーンの実施

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の歩行中や自転車の死亡事故が多い ・薄暮時から夜間にかけての歩行中の事故が多い 					
	主観的課題	高齢者が交通安全に関する知識を得る機会が少ない					
目標	夕方・夜間の高齢者関連交通事故件数（割合）の減少						
内容	夜間・薄暮時の外出時に車両から早期に発見されることで交通事故を回避するため、高齢者に対して、明るい服や反射材の着用を促す街頭キャンペーンを実施する						
対象者	一般市民（高齢者）						
実施者	交通安全協会、交通安全指導員等ボランティア、老人クラブ連合会等関係団体、警察、市など						
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全講習会の開催 ・街頭啓発キャンペーン、各種交通安全イベントへの参加 ・委員の所属団体や関係団体における啓発、団体広報紙等への記事掲載 ・チラシ、啓発グッズの作成 						
2019年度の実績及び改善した点等	<ul style="list-style-type: none"> ○「四季の交通安全運動関連イベント」開催 交通安全運動期間に、飲酒運転撲滅や安全運転等と併せて、反射材や明るい服の着用を呼びかける交通安全フェア等を開催。（4回：シティプラザ/西鉄久留米駅等） ○キャンペーンやイベントの機会を利用した反射材啓発 警察や交通安全協会等と連携して実施する自転車安全利用や横断マナーアップキャンペーンの機会を利用し、反射材を配布し着用を促進。（12回：1900個：西鉄久留米駅等） ○出前講座で反射材着用を促進 高齢者学級等へ出前講座を行い、反射材の効果を認識してもらい参加者の反射材着用を促進。（計11回、200個配布） ○地域行事における交通安全啓発の支援（反射材提供）（700個） ※青峰・南・大善寺校区 						
2020年度の方針及び課題等	<p>反射材着用等の重要性を知る機会の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種キャンペーン、イベントの機会を捉えて反射材着用を啓発 ・広報紙や市ホームページを活用し、反射材の効果と着用を促進（拡充） <p>防犯対策委員会との連携</p> <p>合同防犯パトロールに参加する青パト活動団体に反射材を提供し、夕方・夜間の巡回時に歩行者等へ配布することで事故防止を図る。</p> <p>交通安全指導員の制服リニューアル【新規】</p> <p>新たな制服の各部に反射素材を使用し、指導員自身の安全確保に加え、反射材の効果をPRする。</p>						
指標	内容	単位	2015	2016	2017	2018	2019
活動指標	①キャンペーンの実施回数	回	11	11	10	12	12
	②出前講座の実施回数	回	11	12	4	11	11
【短期】認識・知識	講習参加者の意識の変化[アンケート] 受講後、「必ず反射材を身につけて外出するようにする」と答えた方の割合	%	2017より調査		59.1	72.2	72.3
【中期】態度・行動	反射材の着用率[SC実態調査(3年毎)] ※必ず身に着けている人の割合	%	2017より調査		7.5	—	—
【長期】状況	①高齢者の夕方・夜間（15時～21時） における交通事故発生件数	件	272	275	249	237	190
	②高齢者人口1万人あたりの①の件数	件	35.8	35.2	31.2	29.6	23.2

【高齢者事故防止】1-③ 安全安心マップの作成

課題	客観的課題	高齢者の歩行中や自転車の死亡事故が多い						
	主観的課題	住んでいる地域でも、どこで交通事故が起きているか知らない						
目標	高齢者の交通事故発生件数、全事故に占める割合の減少							
内容	交通事故発生箇所や危険な箇所を記載した地図を作成し、見守り活動や安全施設整備など様々な交通安全活動に活用する							
対象者	一般市民							
実施者	交通安全協会、交通安全指導員等ボランティア、地域コミュニティ組織等関係団体 警察、市 など							
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との協働による研修、フィールドワーク ・防犯、防災分野との連携、調整 							
2019年度の実績及び改善した点等	<p>○防犯分野と連携した安全安心マップの作成</p> <p>山川校区において、通学路危険箇所の調査結果（フィールドワークやPTAへの聞きとり）などを盛り込んだ安全安心マップを作成し、校区内の世帯に配布。</p> <p>また、危険箇所に小・中学生から募集した安全安心に関する標語看板を設置し、危険箇所啓発。</p>							
2020年度の方針及び課題等	<p><u>絆づくり推進事業費補助金を活用した安全安心マップの作成</u></p> <p>マップを作成する地域や団体に対し、市と協働してマップを作成した校区の事例や補助金の活用についての情報提供などをし、アドバイザーとしてマップ作成への支援を行う。</p>							
指標	内容	単位	2015	2016	2017	2018	2019	
活動指標	市との協働によりマップ作成に取り組んだ校区数	校区 (延べ)	0 (2)	1 (3)	2 (5)	1 (6)	1 (7)	
【短期】認識・知識	マップ作成校区の交通事故発生件数 [警察統計] (前年比)	件	120 (+13)	240 (-4)	410 (-33)	424 (-73)	385 (-101)	
【中期】態度・行動	マップを作成し、交通安全に取り組んでいる校区数 [各校区へのアンケート調査]	校区	28	29	29	34	34	
【長期】状況	①高齢者の交通事故発生件数	件	814	792	734	676	538	
	②高齢者人口1万人あたりの①の件数	件	107.0	101.5	91.8	84.5	65.6	

【自転車安全利用】 1-④ 交通安全教室の実施

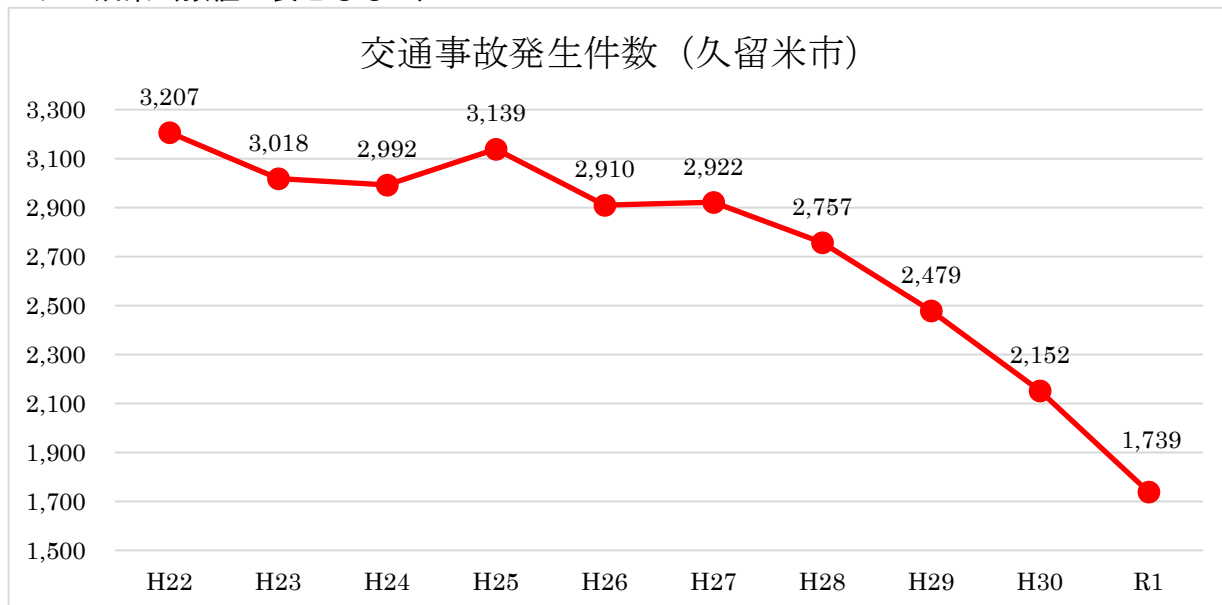
課題	客観的課題	10歳代の自転車事故が突出して多い						
	主観的課題	年代に応じた交通安全教育が不足 } (10歳代前半：自転車に慣れていない 10歳代後半：通学など行動範囲の拡大)						
目標	自転車の交通事故発生件数・全事故に占める割合の減少							
内容	地域の交通安全ボランティアの協力を得て、年齢に応じた交通安全教育を実施するとともに、対象を中学生、高校生に拡大して実施							
対象者	幼稚園・保育園児、小学生、中学生、高校生							
実施者	地域交通安全活動推進委員、交通安全指導員、交通安全協会、学校、警察、市 など							
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室の実施 委員の所属団体や関係団体における啓発 チラシ、啓発グッズの作成 							
2019年度の実績 及び 改善した点等	<p>○年齢層に応じた「交通安全教室」実施 警察や交通ボランティア等と連携し、児童・生徒が道路の正しい歩行や自転車に乗る前の点検方法や正しい走行について学ぶ交通安全教室を実施。 ※全46小学校で実施したほか、保育園・幼稚園、中学校・高校、高齢者学級等でも実施。</p> <p>○学童保育所への「セーフコミュニティ教室」開催 長期休暇の時期を利用して、学童へ通う児童に「けがや事故」の予防策について、体験しながら楽しく学んでもらうことを目的に開催（17回）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>							
2020年度の方針 及び 課題等	<p><u>中学生・高校生への新たなルールの周知と交通安全教育の推進</u> 条例改正による新たなルールの周知と、ルール・マナーを遵守し安全な行動を取るための交通安全教育の推進に向けた働きかけを行う。</p>							
指標	内容	単位	2015	2016	2017	2018	2019	
活動指標	①交通安全教室の実施回数	回	164	192	247	291	339	
	②参加者数	人	19,537	19,436	26,851	27,353	25,191	
【短期】認識・知識	交通ルールについて、「知っており、守っている」と答えた割合 [自転車駐車場利用者アンケート※19歳以下]	%	70.6	59.6	56.1	70.1	75.3	
【中期】態度・行動	自転車関連事故に占める19歳以下の件数[警察統計]	件	177	163	136	119	90	
【長期】状況	自転車の交通事故発生件数	件	458	403	368	308	251	

【自転車安全利用】1-⑤ 自転車安全利用キャンペーンの実施

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・10歳代の自転車事故が突出して多い ・自転車に関するルールを守らない、知らない人が多い 					
	主観的課題	自転車は車両であるという意識が低い					
目標	自転車の交通事故発生件数・全事故に占める割合の減少						
内容	駅周辺や自転車駐車場において、自転車利用者を対象に、ルール・マナー遵守の徹底と安全利用を呼びかける街頭啓発を実施						
対象者	一般市民（自転車利用者）						
実施者	地域交通安全活動推進委員、交通安全指導員、交通安全協会、自転車商組合等関係団体 警察、市など						
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・街頭啓発キャンペーン、各種交通安全イベントへの参加 ・委員の所属団体や関係団体における啓発、団体広報紙等への記事掲載 ・チラシ、啓発グッズの作成 						
2019年度の実績 及び 改善した点等	<p>○自転車安全利用啓発の実施 交通ボランティアや交通安全協会、警察等と連携して、駅周辺やイベント会場で自転車ライトや反射材を配布し、自転車の安全利用を呼びかける啓発を実施（10回：サイクルファミリーパーク、西鉄久留米駅等） ※防犯分野と連携し、「自転車ツーロック」を同時に呼びかけ</p> <p>○「四季の交通安全運動関連イベント」開催 交通安全運動期間に、飲酒運転撲滅や安全運転等と併せて、反射材や明るい服の着用を呼びかける交通安全フェア等を開催。（4回：シティプラザ/西鉄久留米駅等）</p> <p>○市内の新中学生全員に自転車安全利用五則チラシを配布（1月入学説明会、2,800部）</p> <p>○新成人に対して飲酒運転撲滅啓発冊子を配布（1月成人式、3,400部）</p>						
2020年度の方針 及び 課題等	<p>自転車保険加入やヘルメット着用義務の周知・啓発【新規】</p> <p>様々な交通関連イベント等の機会を利用して、自転車保険加入やヘルメット着用の義務について広く周知を行う</p>						
指標	内容	単位	2015	2016	2017	2018	2019
活動指標	キャンペーンの実施回数、配布物数	回	10	13	14	18	14
		セット	3,800	4,000	4,160	5,000	3,400
【短期】認識・知識	交通ルールについて、「知っており、守っている」と答えた割合 [自転車駐車場利用者アンケート※20歳以上]	%	74.9	75.6	72.9	69.2	80.1
【中期】態度・行動	自転車関連事故に占める20歳以上の件数[警察統計]	%	281	240	232	189	161
【長期】状況	自転車の交通事故発生件数	件	458	403	368	308	251

重点取り組み項目	No	具体的施策名
高齢者の交通事故防止	1-①	運動能力や身体機能に着目した啓発・講習の実施
	1-②	明るい服及び反射材の着用キャンペーンの実施
	1-③	安全安心マップの作成
自転車事故の防止	1-④	交通安全教室の実施
	1-⑤	自転車安全利用キャンペーンの実施

ア. 成果〈数値で表せるもの〉



横ばい傾向であった市内の交通事故発生件数は、セーフコミュニティ国際認証取得(H25)以降、減少傾向に転じており、H25年の約55%に減少した。

イ. 成果〈数値で表せないもの〉

各団体等と連携した啓発活動の実施

- ・街頭キャンペーンへの協力（トラック協会、タクシー協会等）
- ・青少年健全育成分野との連携（安全安心コンサートでの啓発）
- ・高齢運転者の事故防止に向け、企業や自動車学校、警察と協働して安全運転支援装置の体験試乗を開催したほか、後付け安全運転支援装置の提供を受け、実証実験を行った。

ウ. 2019 年度の取り組みで最も成功した事例

子ども向けセーフコミュニティ教室の実施

学童へ出向き、スクリーンや啓発グッズを活用したり、実演を交えたりしながら、児童に横断歩道の渡り方や車の死角、反射材の効果など、交通安全について楽しく学べるセーフコミュニティ教室を 2018 年度から実施したが、前年を大きく上回る 17 校区で実施することとなった。

エ. 2019 年度で最も積極的に取り組んだ活動

高齢運転者の交通事故防止

高齢運転者に安全運転支援装置の効果を実際に体感してもらい、普及促進につなげるため、新規の取組として、民間企業、自動車学校、警察と連携して、安全装置搭載車の試乗体験会を実施した。

また、交通ボランティア等、高齢者が普段使用する車に、ダイハツ工業から提供された、後付け安全運転支援装置を取付け、運転者・家族の安心感や効果等に関する実証実験を実施した。

オ. 分野横断的に行っていること

久留米市交通安全対策協議会との連携（対策委員会が協議会の幹事を兼任）

交通安全対策委員会では交通安全対策協議会と連携しながら、ハード面の整備や、啓発活動について計画を進めた。

防犯対策との連携

- ・自転車安全利用キャンペーンの際には、自転車の盗難防止についても併せて啓発を行う。
- ・青パト防犯活動を行う校区コミュニティ組織が使用する車両に、衝突警報装置を設置し、交通事故を予防
- ・横断マナーアップキャンペーンに併せて、性犯罪防止や偽電話詐欺防止の啓発を同時開催

カ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

高齢者の交通事故防止

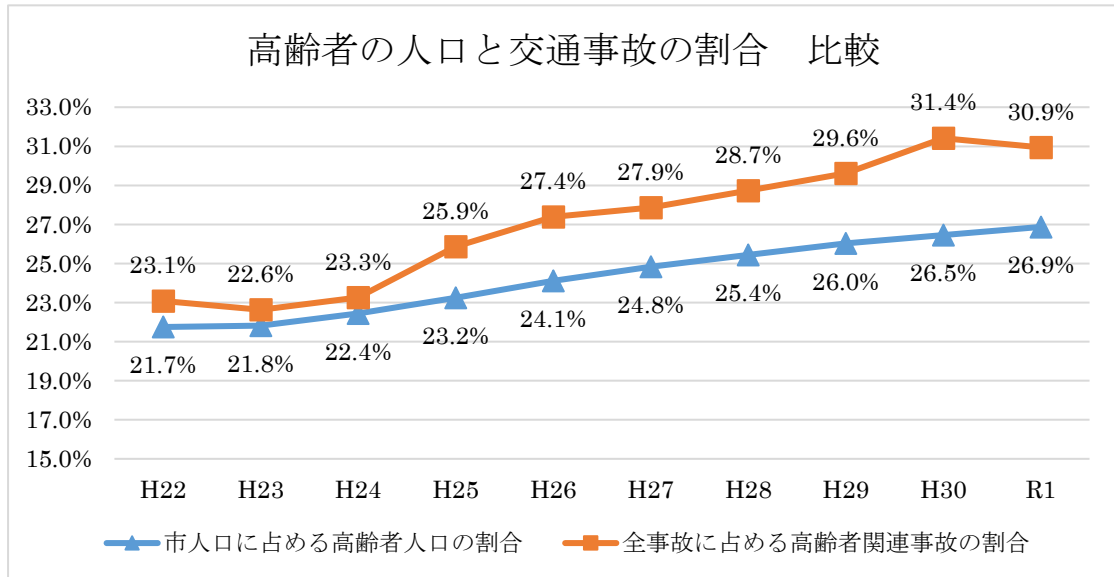
高齢者関連の交通事故発生件数は減少傾向にあるが、依然として交通事故の全事故に占める、高齢者関連事故の割合は 3 割以上と高い。（図①）。

そのため、引き続き、高齢者が加害者となる事故、被害者となる事故の両面から取り組んでいく必要がある。

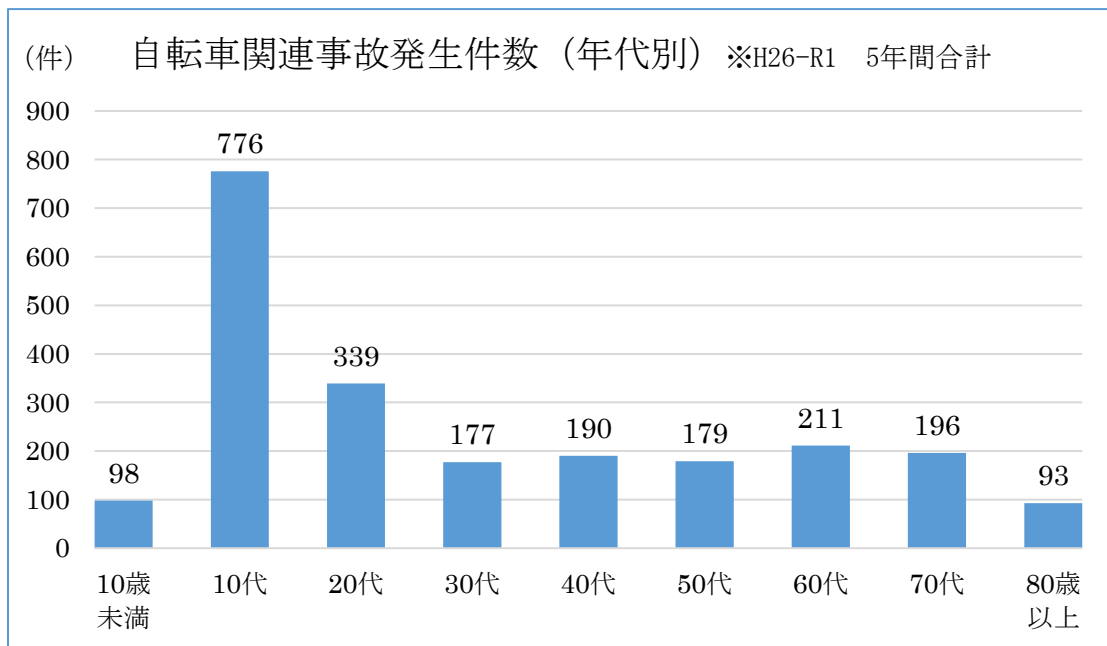
自転車保険加入の促進

自転車関連事故は 10 代が突出（図②）しているため、中学・高校生の自転車安全利用の啓発を進める必要がある。また、福岡県では条例を改正し、自転車保険の加入を義務化することから、安全利用と併せて保険加入の促進についても効果的な啓発を行う必要がある。

図①



図②



2020年度取り組み方針

交通安全対策委員会

総括票

具体的施策		2020年度取り組み方針
1-①	運動能力や身体機能に着目した啓発・講習の実施	<p><u>高齢者向け交通安全講習の受講機会の拡大【拡充】</u> <u>高齢者の運転免許証自主返納啓発チラシの作成【新規】</u> 免許返納者に対する支援サービス等を掲載した啓発チラシを作成し情報提供することで、高齢者の運転免許証の自主返納を促進する。</p>
1-②	明るい服及び反射材の着用キャンペーンの実施	<p><u>反射材着用等の重要性を知る機会の拡大</u> ・各種キャンペーン、イベントの機会を捉えて反射材着用を啓発 ・広報紙や市ホームページを活用し、反射材の効果と着用を促進（拡充） <u>防犯対策委員会との連携</u> 合同防犯パトロールに参加する青パト活動団体に反射材を提供し、夕方・夜間の巡回時に歩行者へ配布することで夜間の交通事故防止を図る。 <u>交通安全指導員の制服リニューアル【新規】</u> 新たな制服の各部に反射素材を使用し、指導員自身の安全確保に加え、反射材の効果をPRする。</p>
1-③	安全安心マップの作成	<p><u>絆づくり推進事業費補助金を活用した安全安心マップの作成</u> マップを作成する地域や団体に対し、アドバイザーとして制作活動や補助金の活用などについて支援を行う。</p>
1-④	交通安全教室の実施	<p><u>中学生・高校生への新たなルールの周知と交通安全教育の推進</u> 条例改正による新たなルールの周知と、ルール・マナーを遵守し安全な行動を取るための交通安全教育の推進に向けた働きかけを行う。</p>
1-⑤	自転車安全利用キャンペーンの実施	<p><u>自転車保険加入やヘルメット着用義務の周知・啓発【新規】</u> 様々な交通関連イベント等の機会を利用して、自転車保険加入やヘルメット着用の義務について広く周知を行う</p>

セーフコミュニティ実態調査(案)について

1. 実態調査の概要(予定)

- ・目的 SCの具体的施策の根拠や、その成果指標等の最新データとして活用
- ・調査時期 令和2年夏から秋頃

※他の対策委員会との調整により、設問の増減あり

2. 実態調査結果の活用について

- 問1 反射材の着用率(高齢者事故防止施策の成果指標に設定)、反射材を着用しない理由を調査
- 問2 運転に対する不安感について調査
- 問3 運転免許証の返納についての考え方について調査
- 問4 運転免許証を返納して困ることについて調査

問3 運転免許証の返納について、あなたの考えに近いと思うものはどれですか。

(○はひとつ)

1. (70歳以上や80歳以上などの)年齢制限を定めて一律に返納した方がよい
2. 家族や身近な人から運転を控えるように勧められたら返納した方がよい
3. 身体能力や判断力の低下を感じたら自ら返納した方がよい
4. 気を付けて運転すれば返納しなくてもよい
5. 運転に自信があれば返納しなくてもよい
6. その他 ()

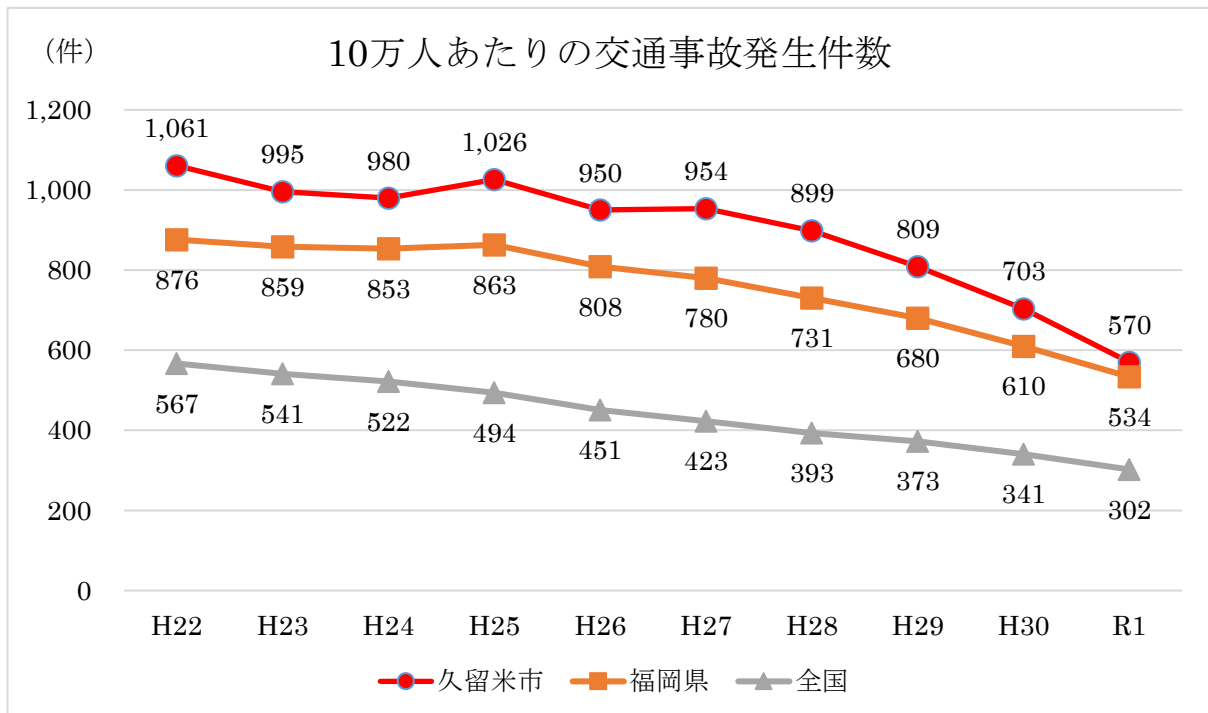
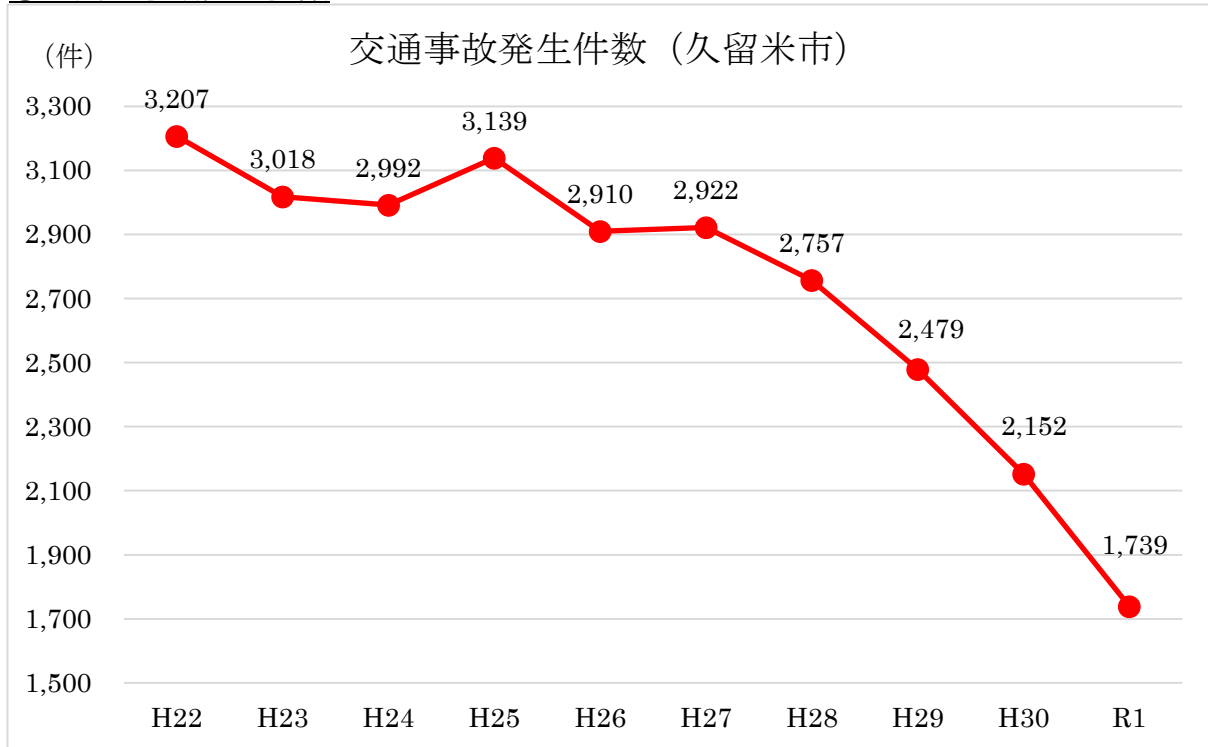
問4 運転免許証を返納して困ると思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 買い物や通院などの移動
2. 家族等の送迎
3. 仕事関係
4. 趣味や娯楽(移動を含む)
5. 運転免許証を身分証明書代わりにできない
6. その他 ()

久留米市における交通事故発生状況

データ: 警察統計もしくは警察統計を基に事務局整理

① 交通事故発生件数

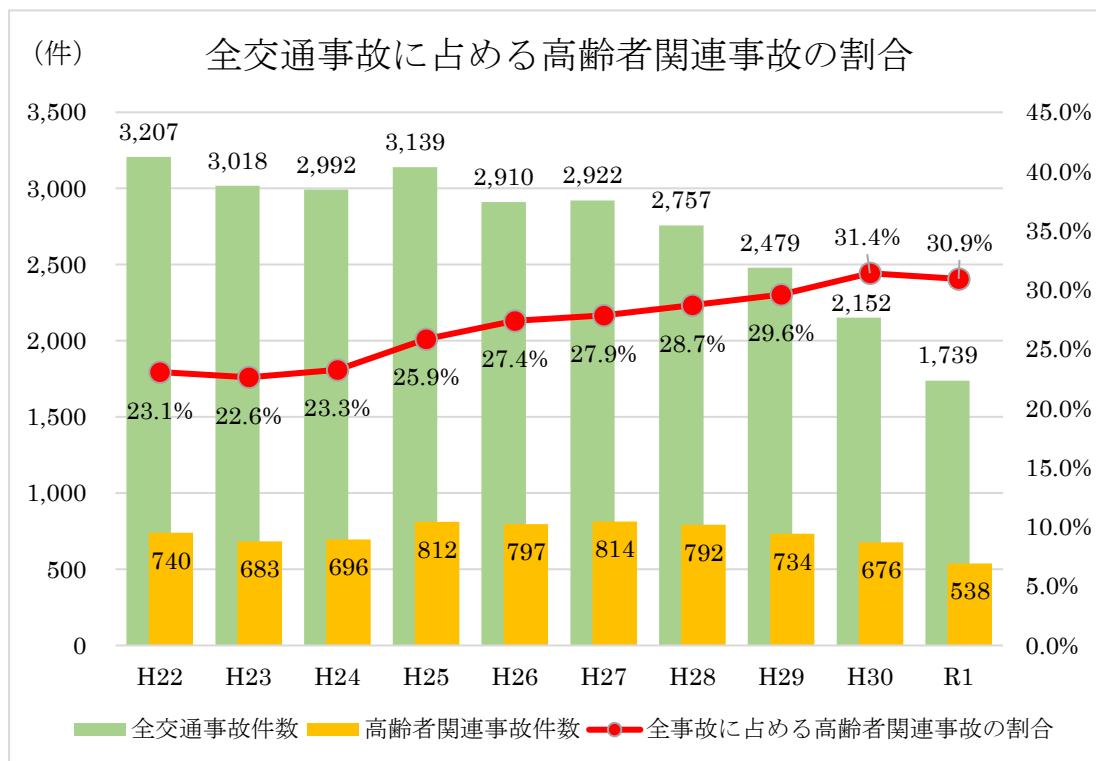


久留米市内の交通事故発生件数は減少傾向で推移しているが、10万人あたりに換算すると、県、全国と比較して高い水準にある。

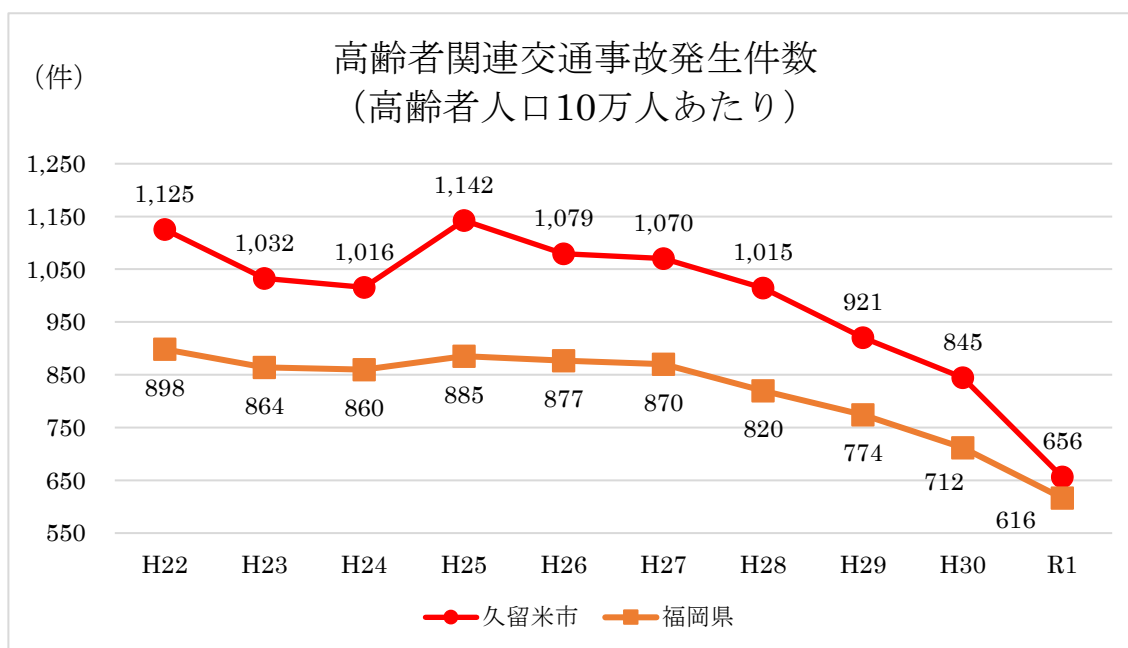
② 令和元年中の交通死亡事故（久留米市内）

- ★交通事故による死亡者…平成30年:10人 → 令和元年:4人
- ★高齢者の死亡者………平成30年:7人 → 令和元年:2人

③ 高齢者の交通事故発生件数

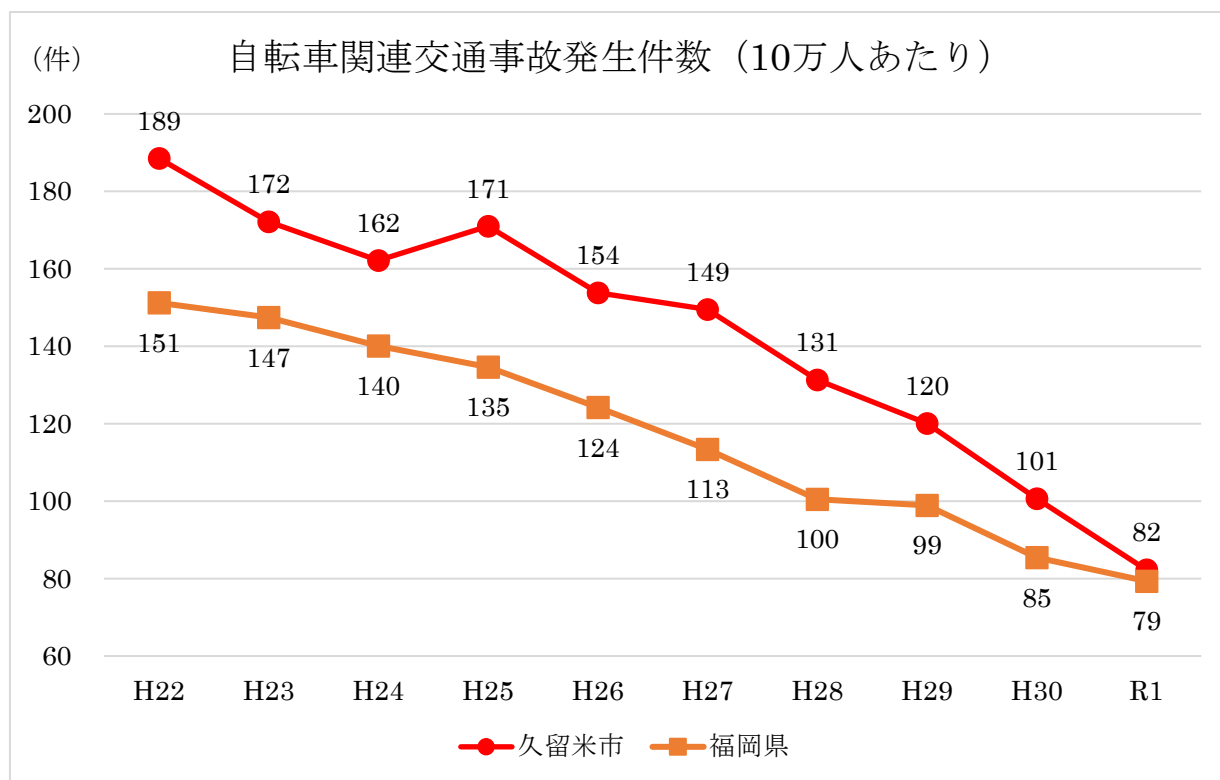


高齢者の交通事故発生件数は近年減少傾向で推移しているが、全交通事故に占める割合は高まっている。



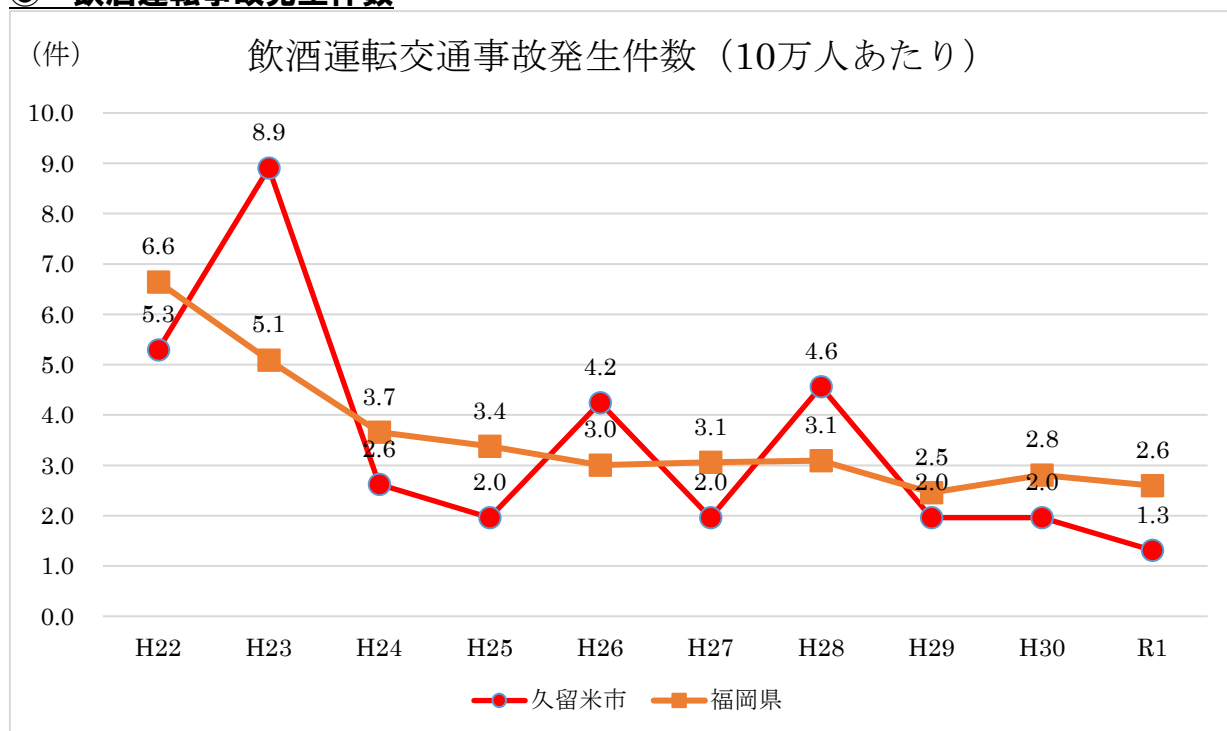
10万人あたりの高齢者の交通事故発生件数は減少傾向にある中、県より高い水準にあるが、その差は狭まっている。

④ 自転車の交通事故発生件数



自転車の交通事故発生件数は、減少傾向にある中、県より高い水準にあるが、その差は狭まっている。

⑤ 飲酒運転事故発生件数



飲酒運転による交通事故発生件数は、減少傾向にあるが、飲酒運転の撲滅には至っていない。